

私たちの施設は、自然史資料館といいます。「自然史」って聞いたことありますか？これは英語のNatural History (ナチュラル・ヒストリィ)の直訳です(自然誌とも書き、明治時代には博物学と訳されていました)。自然史は、私たちのまわりの自然を明らかにする学問で、文明の起原とともに始まりました。

当館では主に石川県の生きもの(動物・植物など)と地学(岩石・化石など)を調べています。どんな種類が、どこに分布しているか、野外調査を繰り返し、標本をたくさん集め、整理します。生活史(植物では、いつ芽をだし、花が咲き、種子ができるか)、一回に産む卵や子どもの数、寿命、移動力なども調べます。自然界には、ビールスや微生物からクジラや巨木まで、サイズも生活史も異なる無数の生きものが生活しており、種類数を明らかにするだけでもたいへんです。

いま、私たちの身近な自然に異常がおきています。生きものの分布や生活史が変わっていませんか。見なれた生きものが絶滅したり、獣害や外来種問題がおきていないか、みんなでいっしょに調べてみませんか。

当館は、長年にわたり標本と情報を収集し、ネットワークをつくってきました。地味な活動ですが、ある程度の成果をあげています。さらに活動をつづけ、ひろげてゆきます。あちこちで自然史調査をしています。みなさまのご参加、ご提案を歓迎します。

(館長 中村浩二)

